

絶えず祈りなさい。テサロニケ人への手紙第1 5:17

-----

各地から桜の便りが届いています。人間の世界がどんなであつても、自然はお構いなしに季節を謳歌し、喜びの姿を見せてくれます。満開の桜を見上げた時、そのやわらかな美しさがつらいニュースで暗くなった心を引き上げ慰めてくれる気がします。けれど、今、戦禍におびえる人々の目に入るのは色をなくした瓦礫の世界でしょう。

私たちに何ができるのでしょうか。

冒頭のみことばは英語ではpray without ceasing.とあり、間断なく祈りなさい。祈ることを止めないで祈り続けなさい。とパウロは勧めます。

イエス様は弟子たちに、いつでも祈るべきで失望してはいけないとたとえで話されました。裁判官が裁判をしてくれるまで求めるやもめ（ルカ18:1-6）、真夜中の訪問者の為に友だちにパンを求め、友だちが起きてくれるまで求める人（ルカ11:5-8）、みなしつこく、あきらめないで求め続けました。すると裁判官も友だちも求めに応じました。イエス様は言われます。「まして、神は昼も夜も神に叫び求めている、選ばれた者たちのためにさばきを行わないで、いつまでも放っておかれることがあるでしょうか」（ルカ18:7）イエス様の力強い御声が聞こえます。主の御力を信じ、ウクライナに一日も早く平和が来るように、祈りを止めないで、祈り続けましょう。

伝道師 川島正子